

<発表要旨 1>

「殖民地朝鮮の「公」的絵画—朝鮮ホテル壁画を中心に—

金 正善（東亜大学非常勤講師）

朝鮮ホテルは、高宗皇帝の即位式が行われた園丘壇と石築を壊して、1913年9月から1年をかけて翌年9月に完成された朝鮮総督府鉄道局直営のホテルである。その1階の大広間と宴会室に、山下新太郎（1881-1966）と湯浅一郎（1868-1931）の手になる壁画15点がかけていた。「朝鮮の風色」を画題にしたとされるこれらの壁画は、1967年のホテル撤去（現在はウェスティン朝鮮ホテル）以前にすでに取り替えられており、現在その所在は不明である。そのため先行研究としては、湯浅の《朝鮮ホテル壁画下絵》（群馬県立近代美術館委託）を紹介した染谷滋氏の「京城朝鮮ホテルの壁画」（美術館ニュース No. 59、平成元年12月）が唯一であり、これまでその全体像が紹介されることはなかった。そこで本発表では、当時の写真や文献資料を手がかりに作品の具体的な概要を紹介し、その画題選択にみられる政治性を日本の植民地政策の上で明らかにすると同時に、日本近代壁画の流れの上での位置づけを試みたい。

1911年、鴨緑江鉄橋の完成は、下関から京釜線（釜山—京城）—京義線（京城—新義州）を通じてハルピン—シベリアを貫通する大陸鉄道の時代を開幕させる。朝鮮ホテルは、このような急速に拡張する鉄道建設に便乗し設立された。事実、大広間に飾られた「水原、慶州、全羅北道、金山寺、開城、京城昌徳宮秘園、牛耳洞及金剛山の絶景」は、当時完成された鉄道路線上の地域とほぼ重なっており、特に宴会室にかけられた「平壤大同江ノ風景」は、当時日清戦争の跡地として記念公園の建設計画が進められていた「古跡」でもあった。園丘壇という王室の権威空間を破壊して近代文明を象徴する洋風建築を建て、そのなかを日本の歴史（古跡）や神話で飾ることは、以後、朝鮮総督府壁画にも窺うことができる。植民地朝鮮の「公」的な場は、このことにより正式に帝国日本の外地となった。

他律的とはいえ、このような「同化」イデオロギーは、和洋折衷の国粋主義的な主題からアジア的な共通イメージへと変貌していた日本近代壁画の流れとも一致するものであり、朝鮮ホテル壁画はそのさきがけであったといえるであろう。

<発表要旨 2>

「東亜大学校博物館所蔵 紺紙銀字『大方廣佛華嚴經』第 40 卷の諸問題」

金 鍾珉（九州大学訪問研究員）

東亜大学校博物館所蔵の紺紙銀字『大方廣佛華嚴經』第 40 卷は、朝鮮時代の英祖 4 年（1728）に補修された発願文の記録により、現在確認される唯一の 18 世紀の写経であり、巻首に「入不思議解脱境界普賢行願品」‘第 40 卷’と記されていることから、四十華嚴の最後の巻であることが確認できる朝鮮時代後期写経の基準作である。

その発願文に着目すると、補修の記録・写経製作の目的・施主者が記されていることから写経の製作背景をうかがうことができ、さらに記された写経文字の書体や補修のために用いられた紺紙の料紙等からは、当時の技術の高さを見定めることができる貴重な作品といえる。

しかしながら近年、朝鮮時代の作品として知られていた本写経が、高麗時代の製作（14 世紀中葉）であるとの見解が、所蔵元の東亜大学校博物館と韓国の研究者によって提示され、議論となっている。この見解は、本写経の前半部分（第 1 面～第 36 面）と後半の補修部分（第 37 面～第 68 面）の製作時期が異なることに注目し、前半部の変相図が、高麗時代の写経変相図であるとする見方から、本写経を高麗時代の写経と判断するものである。

今回の研究の目的は、本写経の製作年を決定することであり、その際の判断基準となる観点を提示するものである。本写経の前半部分の変相図に高麗時代の特徴が見られることを根拠に、その製作時期が高麗時代とされるが、本写経の変相図を詳細に検討した結果、前半部分にも朝鮮時代の特徴を確認することができた。

さらに、補修された部分の写経の書体に着目すると、18 世紀朝鮮時代写経の特徴ともいえる韓濩（ハンホ、1543～1605）の‘石峰体’（ソクボンチェ）が見られる。韓濩の‘石峰体’とは‘写字官体’であり、朝鮮時代後期の官公署の書体として、朝鮮時代の外交文書と公文書を書く際に用いられた方正な楷書である。また本写経の発願文と朝鮮時代の仏画の画記の様式を比較すると、そこに近似性が見出せることから、この時期の写経が比較的作例の多い朝鮮王朝の仏画の影響を受けていることが推測できる。

以上のように本写経は、全体を通じて朝鮮時代の特色をよく表した写経であることがわかる。前半部の変相図に高麗時代の特徴がみられるという理由から、本写経を高麗時代の写経と判断するのではなく、製作年の想定には写経全体を通しての考察が必要なのではないだろうか。